

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03640

研究課題名（和文）国際比較可能データによる金融資本市場と経済政策に関する分析

研究課題名（英文）Analysis on financial markets and economic policy using internationally comparable data

研究代表者

亀坂 安紀子（Kamesaka, Akiko）

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：70276666

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,500,000円

研究成果の概要（和文）：ノーベル賞受賞者のシラー教授とともに投資家調査を実施し、多数の英文、邦文の専門雑誌などに調査研究結果を公表した。また、ドイツ日本研究所と共同で国際セミナーを開催し、その講演録などを英文図書としてSpringer社から出版した。東京のスウェーデン大使館で開催されたスウェーデン国立銀行総裁や日本の国会議員などが出席した夕食会でも、研究結果や政策含意を報告するなど、多様な形で広く研究成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、ノーベル賞受賞者のシラー教授とともにマーケット予測に関する日米比較可能な投資家予測に関する貴重なデータを収集することができ、タイムリーな形で分析結果を公表することが可能となったことの学術的貢献は大きいと考える。研究者を対象とした学術雑誌や図書だけでなく、『月刊 資本市場』等、機関投資家などの実務家が購読する専門雑誌にも広く研究成果を公表した。研究代表者はファイナンシャルプランナーや高校生を対象とした講演会などでも広く研究成果を公表しており、社会的貢献も大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：We conducted investor survey with Prof. Robert Schiller, Nobel prize recipient, and published journal articles and many other outputs both in English and Japanese. We also held an international seminar jointly with German Institute for Japanese Studies, and its outputs were published as a book from Springer in English. Akiko Kamesaka was also invited to present our research outcomes at Swedish embassy in Tokyo etc., and our research outputs were made public in various ways.

研究分野：金融

キーワード：金融論 金融 ファイナンス 経済学 経済政策

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2013年にノーベル経済学賞を受賞したロバート・シラー教授は、様々な研究成果を通じて投資家心理が市場に与える影響が大きいことを実証的に示してきた。本研究の第一の目的は、そのような分析アプローチを用いるロバート・シラー教授と共同で、投資家がどのように考え、行動しているかの調査を行い、株価の決定メカニズムをより深く解明することである。2013年度中までは、日本の機関投資家調査は筒井義郎教授(2014年3月に大阪大学を退官)が実施しており、筒井教授はシラー教授との以下の共著論文などの研究成果を公表してきた。

\* Shiller, Robert J & Kon-Ya, Fumiko & Tsutsui, Yoshiro, "Why Did the Nikkei Crash? Expanding the Scope of Expectations Data Collection," *The Review of Economics and Statistics*, vol. 78(1), pages 156-64, February.1996.

\* Shiller, Robert J. & Kon-Ya, Fumiko & Tsutsui, Yoshiro. "Investor behavior in the October 1987 stock market crash: The case of Japan," *Journal of the Japanese and International Economies*, Elsevier, vol. 5(1), pages 1-13, March.1991.

2014年度からは亀坂が日本の調査を引き継いだ。調査継続・拡大のために研究資金が必要となり、本研究資金の多くは、調査の実施・拡充のために支出された。

### 2. 研究の目的

ここ数年、株式市場や為替市場など、金融資本市場の不確実性は増大し、世界経済に対する不安も増大していた。共同で投資家行動に関する調査・研究を実施しているロバート・シラー教授はこれまで、投資家心理が市場に与える影響を様々な研究で示してきた。本研究の主要な目的の一つは、ロバート・シラー教授と共同で、株価の決定メカニズムをこれまでよりも踏み込んだ形で解明することである。シラー教授は、大阪大学を退官した筒井義郎教授とともに25年にわたって日本で半年毎の機関投資家を対象とした調査を実施してきたが、マーケット、特に株式市場は様々なイベントごとに反応して変化するため、その時々で変化する投資家心理を明らかにすることを目的としている。本研究資金によって独自にデータを収集し、学術的な研究を進めるとともに、タイムリーに広く社会にアンケート結果にもとづく形でその時々々の調査・分析結果を発信する。また、株式市場は、その時々々の政策に反応する形で変化するため、関連する政策分析も実施・公表する。

### 3. 研究の方法

(1)投資家を対象とするアンケートのデータ構築・分析：本研究では投資家を対象とするアンケート・データを独自に構築し分析した。この投資家のマーケット予測のデータに関しては、研究初年度から、それまでに得られた研究結果を紹介する形で積極的に広く公表した。研究代表者の亀坂は、日本FP学会が発行する雑誌『ファイナンシャル・プランニング研究』などで積極的に研究成果を発表し、関連研究について編者、著者としてとりまとめて英文図書として Springer社から出版した。

(2)生活満足度等の分析：研究代表者の亀坂は、2012年から2017年の間、内閣府の経済社会総合研究所の客員主任研究官として、過労死不安や長時間労働、自殺対策についても分析を進めており、本研究でも関連する政策研究を実施した。特に、コロナ禍が経済に深刻な影響をもたらして以降は、内閣府の生活満足度に関する研究会のメンバーとしても、日本FP学会の大会などで生活経済への影響等に関するアンケート調査の結果について報告を行った。亀坂はまた、World Database of Happinessの構築者として世界的に知られる Ruut Veenhoven氏らとも共同で国際比較可能な形で独自のアンケート調査を実施し、そのアンケート調査で得られたデータの分析結果を論文として共同で執筆し、*Survey Research Methods* という英文レフリー付き雑誌に Veenhoven氏らと共著の形で研究成果を公刊した。

### 4. 研究成果

シラー教授とともに日本において独自の投資家調査を月次で実施することができたことの学術的貢献は大きく、研究初年度から様々な形で調査研究の成果を公表した。投資家行動に関する研究以外にも様々な関連研究が実施され、専門雑誌への論文の公表、学会等での招待講演、国際研究集会の開催、海外の大学での研究報告、スウェーデン大使館等での講演、東京証券取引所から生放送番組での調査結果の公表などを通じて、本研究資金で得られた成果を広く公表・発信した。以下、研究年度毎に得られた主要な成果を紹介する。

#### (1)平成28年度の主要な成果

研究代表者の亀坂は、2016年9月に東京にあるドイツ日本研究所にて同研究所の所長の

Franz Waldenberger 氏と共同で、本研究資金も使用して国際研究集会を開催した。この国際研究集会の内容にもとづき、亀坂は Franz Waldenberger 氏と新たな共同研究を開始し、関連する研究成果をまとめる形で英文図書の刊行作業を始めた。同時にまた、『月刊 資本市場』という機関投資家の多くが購読する専門雑誌からの依頼により、調査結果を紹介した論文を寄稿し、研究分担者の筒井、新井の協力の下でそれまでに得られた成果を公表した。これ以外にも亀坂は、研究分担者の協力も得ながら行動経済学会や横幹連合コンファレンスなどで招待報告を行い、海外の大学やスウェーデン大使館でも招待講演を行った。また、一般の投資家に向けに東京証券取引所から生放送の番組にて本研究資金で得られた調査結果を紹介するなど様々なかたちで成果を広く公表・発信した。

#### ( 2 ) 平成 29 年度の主要な成果

研究代表者の亀坂は、2017 年 9 月 16 日に開催された日本 FP 学会の大会パネルディスカッション「金融政策の動向と今後の金融資本市場」にて、本研究資金を使用して実施した投資家調査などの成果について報告を行った。この学会の概要は、日本 FP 協会の月刊誌である Journal of Financial Planning にも紹介された。この年度中には、2017 年 12 月のビットコイン市場でのバブルの崩壊や、中国市場での株価の下落、日米の株式市場を含む世界の市場での 2018 年 2 月のリーマンショック時以来の株価の急落など、大きな市場イベントを経験した。このようなイベントが発生するたびに、本研究資金を使用して実施している投資家調査への関心も高まり、亀坂は研究分担者の新井の協力の下で毎月、調査結果を亀坂の大学のホームページ上でも公開した。亀坂はまた、本研究資金の一部を使用して、日本経済学会秋季大会を所属先の青山学院大学青山キャンパスにて大会運営委員長として開催した。同学会の大会は、日本で最大規模の国際研究集会であり、開催にあたり研究分担者の筒井、大垣、新井、田村らの協力も得た。研究分担者の石野も、関連研究を進めた。

#### ( 3 ) 平成 30 年度の主要な成果

研究代表者の亀坂は、2016 年 9 月にドイツ日本研究所と共同開催した国際セミナーの研究報告をベースとして、Springer 社との間で英文専門図書出版の交渉や原稿の準備を行った。亀坂はまた、前年度に開催した日本経済学会秋季大会の引継ぎを本年度の開催校との間で行い、2018 年度の大会では同学会の臨時託児所運営のサポートも行った。投資家調査については、米国の共同研究先の Yale 大学のファイナンス・センターに順次毎月のサマリーデータ（基本統計）を送り、Yale 大学からも調査結果を公表するように Yale 大学との間で調整を行った。さらに、調査データ（特にサンプル数）拡充のため、QUICK 社との連携も進めた。これ以外にも、研究代表者の亀坂、研究分担者のいずれも論文の成果発表などを行った。

#### ( 4 ) 令和元年度の主要な成果

研究代表者の亀坂は、以下の引用文献にも掲載している Springer 社の英文専門図書出版準備に多くの時間を費やした。より具体的には、亀坂は編集者として、Springer 社とのすべての契約手続きを進め、全 6 章の文章内容全体のチェック、各章の原稿内容の確定後にあらためて執筆する必要があった各章の内容の紹介を含む第 1 章原稿の執筆、書き改めなどである。非常に多くの時間を費やしたが、専門書の内容が高く評価され、Springer 社の“Economics, Law, and Institutions in Asia Pacific”という Book Series として、厳しいレフリー審査を通過の上で刊行された。本書の各章の執筆者もケンブリッジ大学の研究者やドイツ日本研究所長など、国際的に活躍する執筆者ばかりである。研究分担者は、関連論文の学術雑誌での公表や学会発表を行った。令和元年度も亀坂は、「データから読み解く投資家心理」といった投資家調査に関連する講演を行ったほか、設立準備中の日本社会関係学会のプレイベント研究会での「社会関係と幸福度」をテーマとする講演や、内閣府の主催したシンポジウムでの「経済・財政の「見える化」と「生活の満足度」」をテーマとする招待報告など、政策研究に関する学会報告や講演も行った。

#### < 引用文献 >

Akiko Kamesaka, Franz Waldenberger (Editors) Governance, Risk and Financial Impact of Mega Disasters Lessons from Japan, 2019 年、全 114 頁。

( Chapter 1 Financial Impact of Mega Disasters も Akiko Kamesaka は Franz Waldenberger と執筆 )( Economics, Law, and Institutions in Asia Pacific の Book Series として刊行 )

<https://link.springer.com/book/10.1007%2F978-981-13-9005-0>

## ( 5 ) 令和 2 年度の主要な成果

コロナ禍の影響により研究発表の機会が制約されたが、研究代表者の亀坂は、2020 年度中も Yale ファイナンス・センター及び QUICK 社と連携して日本の投資家を対象としたアンケート調査を実施し以下の内容の研究発表を行った。

### < 研究成果 >

亀坂安紀子「コロナ禍と金融市場・生活経済」日本 FP 学会年次大会特別セッション招待報告、2020 年 9 月 5 日大手町サンケイプラザ、日本 FP 協会発行 Journal of Financial Planning 12 月号に紹介記事掲載。日本 FP 学会発行雑誌『ファイナンシャル・プランニング研究 No.20』2021 年 3 月刊行に講演録掲載。

これ以外にも、亀坂及び研究分担者は令和 2 年度も関連研究を実施し、学会や専門雑誌などで成果を公表した。令和 2 年度中の亀坂の主要な関連研究の成果は、World Database of Happiness の構築者として世界的に知られる Ruut Veenhoven 氏らとの共同研究から得られたものである。亀坂は、Veenhoven 氏らと共同で国際比較可能な形で独自のアンケート調査を日本で実施し、そのアンケート調査で得られたデータの分析結果を論文として共同で執筆した。この論文は、Survey Research Methods という英文レフリー付き雑誌に公刊された。

### < 研究成果 >

Tineke de Jonge, Akiko Kamesaka, Ruut Veenhoven, “How to Reconstruct a Trend when Survey Questions Have Changed Over Time. Methods for Scale Homogenization Applied to the Case of Life Satisfaction in Japan 1958-2007 ”  
DOI: <https://doi.org/10.18148/srm/2021.v15i1.7725>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Tineke de Jonge, Akiko Kamesaka, Ruut Veenhoven	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 How to Reconstruct a Trend when Survey Questions Have Changed Over Time. Methods for Scale Homogenization Applied to the Case of Life Satisfaction in Japan 1958-2007	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Survey Research Methods	6. 最初と最後の頁 101-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18148/srm/2021.v15i1.7725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 亀坂安紀子	4. 巻 20
2. 論文標題 コロナ禍と金融市場・生活経済	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ファイナンシャル・プランニング研究 (FP学会発行誌)	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Wakaizumi Kenta, Jabakhanji Rami, Ihara Naho, Kosugi Shizuko, Terasawa Yuri, Morisaki Hiroshi, Ogaki Masao, Baliki Marwan N.	4. 巻 9
2. 論文標題 Altered functional connectivity associated with time discounting in chronic pain	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-44497-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 大垣 昌夫、大竹 文雄	4. 巻 12
2. 論文標題 規範行動経済学と共同体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 行動経済学	6. 最初と最後の頁 75~86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11167/jbef.12.75	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀坂安紀子	4. 巻 No.19
2. 論文標題 経済学者として経済安全保障について考える（巻頭言）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ファイナンシャル・プランニング研究（FP学会発行誌）	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Kinari, Fumio Ohtake, Miles Kimball, Shoko Morimoto and Yoshiro Tsutsui	4. 巻 49
2. 論文標題 Happiness Before and After an Election: An Analysis Based on a Daily Survey around Japan ' s 2009 Election	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 187-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.japwor.2018.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui	4. 巻 27
2. 論文標題 Trade policy preference, childhood sporting experience, and informal school curriculum: an examination of views of the TPP from the viewpoint of behavioral economics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of International Economics	6. 最初と最後の頁 61-;90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/roie.12356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui	4. 巻 in print
2. 論文標題 Effects of pregnancy and birth on smoking and drinking behaviors: a comparative study between men and women	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jere.12184	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shizuka Sekita, Vikas Kakkar and Masao Ogaki	4. 巻 DP2018-023
2. 論文標題 Wealth, Financial Literacy and Behavioral Biases: Evidence from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Keio University Institute for Economic Studies Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nishimura Yusaku, Tsutsui Yoshiro, Hirayama Kenjiro	4. 巻 69
2. 論文標題 Do international investors cause stock market spillovers? Comparing responses of cross-listed stocks between accessible and inaccessible markets	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Economic Modelling	6. 最初と最後の頁 237 ~ 248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.econmod.2017.09.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kim Hyunji, Schimmack Ulrich, Oishi Shigehiro, Tsutsui Yoshiro	4. 巻 86
2. 論文標題 Extraversion and life satisfaction: A cross-cultural examination of student and nationally representative samples	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Personality	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jopy.12339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 亀坂安紀子	4. 巻 369
2. 論文標題 機関投資家の予測と世界の金融資本市場 ~ ロバート・シラー博士と共同実施の投資家調査から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月刊資本市場	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀坂安紀子、新井啓	4. 巻 51
2. 論文標題 機関投資家の市場予測	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 青山経営論集	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀坂安紀子	4. 巻 16
2. 論文標題 マーケットストレス下の証券市場	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ファイナンシャル・プランニング研究	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Kamesaka, Teruyuki Tamura	4. 巻 325
2. 論文標題 Working Hours and KAROSHI Risk Assessment	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ESRI Discussion Paper Series, Cabinet Office, Government of Japan	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Vipul Bhatt, Masao Ogaki, and Yuichi Yaguchi	4. 巻 600
2. 論文標題 Introducing Virtue Ethics into Normative Economics for Models with Endogenous Preferences	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Rochester Center for Economic Research Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 コロナ禍と金融市場・生活経済
3. 学会等名 日本FP学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 経済・財政の「見える化」と「生活の満足度」
3. 学会等名 内閣府主催シンポジウム パネリスト（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 データから読み解く投資家心理
3. 学会等名 日本FP協会愛知支部（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 社会関係と幸福度
3. 学会等名 日本社会関係学会（プレイベント研究会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akiko Kamesaka
2. 発表標題 Work Hours and Anxiety toward Karoshi
3. 学会等名 Fourth Annual Conference of the Japan Economy Network (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大垣昌夫
2. 発表標題 行動経済学と共同体
3. 学会等名 西南学院大学学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Kamesaka
2. 発表標題 Working Hours and KAROSHI Risk Assessment
3. 学会等名 Western Economic Association International (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 筒井義郎、高阪勇毅
2. 発表標題 日本の株式機関投資家の予想形成
3. 学会等名 MEW (Monetary Economics Workshop)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masao Ogaki
2. 発表標題 Pro-environmental and Other Altruistic Attitudes in Malaysia: Effects of Worldviews
3. 学会等名 Western Economic Association International ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉野直行, 亀坂安紀子
2. 発表標題 金融政策の動向と今後の金融資本市場
3. 学会等名 日本FP学会 ( 招待講演 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takuya Ishino
2. 発表標題 The effect of housing inheritance on heirs ' tenure choice, consumption, and savings in Japan
3. 学会等名 Asian Real Estate Society Annual Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石野 卓也
2. 発表標題 The effect of housing inheritance on heirs ' tenure choice, consumption, and savings in Japan
3. 学会等名 応用地域学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 機関投資家調査の結果と世界の金融資本市場
3. 学会等名 行動経済学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 機関投資家の期待形成
3. 学会等名 横幹連合コンファレンス（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 亀坂安紀子
2. 発表標題 労働時間と過労死不安
3. 学会等名 日本経済学会春季大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Akiko Kamesaka et.al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 114
3. 書名 Governance, Risk and Financial Impact of Mega Disasters	

1. 著者名 亀坂安紀子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青山学院大学総合研究所（研究成果報告書）	5. 総ページ数 165
3. 書名 株式市場に関する国際比較調査～投資家心理からのアプローチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究代表者ホームページ  <a href="http://www.cc.aoyama.ac.jp/~akiko/">http://www.cc.aoyama.ac.jp/~akiko/</a></p> <p>イェール大学サイドの投資家調査のページ（日米の両調査に関する説明）  <a href="https://som.yale.edu/faculty-research/our-centers-initiatives/international-center-finance/data/stock-market-confidence">https://som.yale.edu/faculty-research/our-centers-initiatives/international-center-finance/data/stock-market-confidence</a></p> <p>イェール大学サイドの日本の投資家調査に関する結果公表ページ  <a href="https://som.yale.edu/faculty-research-centers-centers-initiatives/international-center-for-finance/data/stock-market-confidence-indices/japan-stock-market-confidence-indices">https://som.yale.edu/faculty-research-centers-centers-initiatives/international-center-for-finance/data/stock-market-confidence-indices/japan-stock-market-confidence-indices</a></p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	筒井 義郎 (Tsutsui Yoshiro) (50163845)	京都文教大学・総合社会学部・教授  (34320)	
研究分担者	大垣 昌夫 (Ogaki Masao) (90566879)	慶應義塾大学・経済学部（三田）・教授  (32612)	
研究分担者	新井 啓 (Arai Kei) (30327001)	明海大学・経済学部・教授  (32404)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石野 卓也  (Ishino Takuya)  (10614034)	金沢星稜大学・経済学部・教授    (33301)	
研究分担者	田村 輝之  (Tamura Teruyuki)  (80635037)	京都経済短期大学・経営情報学科・准教授    (44324)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 日本経済学会（託児運営サポート）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 日本経済学会秋季大会	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Governance and financial aspects of catastrophic/systemic risks	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Yale University			
ドイツ	ドイツ日本研究所			
トルコ	Kadir Has University			
オランダ	Erasmus University Rotterdam			